

2023年度男女共同参画センターはあもにい

第2回運営審議会 議事録

1. 2024年2月14日(水)10:00～12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4階会議室
3. 出席者
 - ◆ 運営審議会委員(10名 五十音順)
阿部広美委員 井手志保委員 岩永秀則委員 小野由里委員 北村眞理子委員
阪本恵子委員 本田恵介委員 松本充右委員 宮村飛伸委員 森紀子委員
 - ◆ オブザーバー
熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課 課長 上村奈津子、主査 内田加奈子
 - ◆ 事務局
 - ・代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社 代表取締役)
 - ・構成企業B 内尾淳(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)
河野正治(熊本産業文化振興株式会社 事務局次長)
 - ・構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミューズプランニング 代表取締役)
館長:吉田稀世
舞台事業課:課長 安藤陽介
維持管理課:課長 寺本祐矢
企画事業課:課長 田中美帆、岡田佳子、宮脇利充、鈴木与施子
総務管理課:島浦萌
4. 会次第及び議事内容
 - (1) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
 - (2) 館長あいさつ(館長 吉田稀世)
 - (3) 審議会委員および出席者紹介
 - (4) 審議
 - 議題1 はあもにい管理運営状況について
 - ・質疑応答
 - 議題2 令和5年度事業方針の状況、効果と課題、今後の取り組み(報告)
 - 議題3 令和6年度事業方針の提案、取り組み理由と、達成するために必要な工夫と考えられる課題(審議)
 - ・質疑応答
5. 特記事項

議事録の署名に関しては、岩永委員、阿部委員が推薦され、議会承認となった。

6. 議事録

議事進行:松本委員

● 議題1 質疑応答・審議

(松本委員)

情報資料室の蔵書管理は何年に一度か行っているのか。本学では司書が所在などの管理をし、なくなった図書は除籍などの作業を行っている。

(事務局 舞台事業課安藤)

毎年蔵書点検を行っている。次年度の予算に対しては、書籍の定価が上がっているため、来年度は図書購入費を増額予定。

(事務局 館長吉田)

蔵書点検は毎年4～5月に行っている。情報資料室は熊本市の図書館ネットワークに入っており、熊本市として図書の管理を行っている。

● 議題2, 3 質疑応答・審議

(阿部委員)

講座にどれくらいの方が参加されて、全般的にどのような効果があったのかがよくわからない。キャリア・スキルアップの講座を受けた方は働くことができたのか、どういった効果があったのかなどははっきりしないので、はあもにいが目指している方向性を伺いたい。

(事務局 企画事業課田中)

資料 P.14 はあもにいの指定事業一覧を参照。年間を通して男女共同参画啓発事業・社会参画支援事業など複数の事業を行っており、それぞれに目的・目標がある。今年度事業の具体的な報告は次回の6月の運営審議会にて行う予定。

(阿部委員)

講座に来た人数などの数値を把握し、講座後にどのような変化、成果があったのかが知りたい。例えば、キャリアアップの講座を受けた方なら、その後どんな活動や仕事をされているのか。また、そういった成果的な部分を測定したうえで次の事業を計画しているのかを知りたい。

(事務局 企画事業課田中)

資格取得講座等に関しては、「就職につながったかどうか」「つながらなかった場合、どういった理由があったか」などの追いかけアンケートをとっている。しかし、ほとんどの講座に関しては終了後の追いかけはできていない。講座に対しての反応は聞いているが、その人が講座後にどう変わったかまでは聞けていない。

(阿部委員)

私はシングルマザーの支援をする中で、女性が社会の中で男性と同じように働いて収入を得ることが一番難しいテーマなのではと思っている。はあもにいの講座だけでなく、経営者団体への働きかけなどが必要。女性の就労支援は難しく、支援された先が介護などの現場で低賃金であることがある。そうするとシングルで子どもを育てていけるかどうかという、とても苦勞されている。そういった破れない殻が男女共同参画のシステムの中にあるように感じ、いつもはがゆい思いをしている。企業の経営者の話を聞くと、人手不足で困っているところもあるので、そこをつないで何かできることはないかと考えている。はあもにいの中でも講座後の追いかけてをさせていただいて、どうい講座がその後のキャリアアップに役に立つのか、一步踏み込んでいただけたらと思う。

(井手委員)

メンズカレッジについてはいつも話題になっていたように思う。ウィメンズカレッジは10期となり人気定着しているようなので、今後はもっと盛り上げて強化を。逆にメンズカレッジの集客がずっと課題となっているのであれば、廃止する、もしくは出前講座に切り替えるなど形を変えてみてはどうか。企業に向けて LGBT や SDGs について伝える出前講座という形をとれば、男性も受講することができ、研修として取り入れやすい。

(岩永委員)

ウィメンズカレッジ修了生のネットワークの強化というと、私たちも県からの委託で女性経営参画について10年間行っている。修了生約200人で作っている KUMADONNA (くまどんな) という団体では定期的に会合を行っているが、皆さん忙しいため、時間・曜日・場所(オンライン含む)を検討して取り組んでいる。そのようにして、時間帯や曜日等を考え直してみるのも一つの手かなと思う。

また、子ども・教育をターゲットにした事業を今後も続けてもらいたい。それと、大学でサークルを作って積極的に動いている団体があると聞いているので、そのような団体と提携して事業を行ってみては。例えば、熊大を事務局としているくまもとユースサロンは、TSUTAYA とコラボを行うなど、盛んに活動をしているそう。そういったところと提携してみるのもよいと思う。

(小野委員)

ウィメンズカレッジは、企業や団体でステップアップを図ろうと考える人たち向け・地域活性化について学びたい人たち向けに講座を作って選択制の回を設けたとあるが、はあもにいとしてはどちらかというと地域活動を対象とした方にきてほしいのでは。どういう講座にしたいかということを中心し、地域活動などに興味がある方を対象とした講座にするという方向性で進めてよいと思う。

メンズ講座については、パパ参加の子育てイベントが少ないと感じている。我々の団体でもパパ参加イベントを企画するが、実際に声をかけても集客には苦勞している。父子講座

で、集客はできても男女共同参画について長く時間をとって伝えるのが難しいとのことだったが、気軽に参加できる方がよいと思う。パパが少し子どもを見てくれる、子どもとの遊び方を覚えるだけでも男女共同参画につながっていることだから、長く時間をとるよりも、地道に回数を積み重ねていっては。一回で長く伝えるのではなく、回数を重ねて少しずつマインドを伝えていくと、意識が変わっていくのはと感じた。

はあもにいフェスタなどで「はあもにいを知らない」という方がいらっしゃったという話があった。我々の団体もイベント等で貸室を利用しているが、わざわざ会場についての説明は行うことはなく、単に会場の名称に「男女共同参画」という言葉が付いている、という認識だった。そこに気づいた参加者はいたかもしれないが、はあもにいの想いを知らず、一つの「貸室」「会場」として利用しているのだと思う。どれだけ紙媒体を配布することに効果があるのかはわからないが、貸室利用者一人一人にはあもにいのリーフレットを配布すると、その中の何人かは目を通すことがあるのでは。

(北村委員)

若年層への啓発強化としてナイストライが行われているが、「百聞は一見に如かず」ということで、実際にはあもにいでどんなことが行われているかを生徒さんが見て、映像や漫画などで男女共同参画について知ることはあるのかが気になっていた。近隣の中学校への働きかけはしているのか。受け入れの人数には制限があると思うが、「はあもにいでナイストライではこんなことが学べる、ジェンダーについて聞くことができる」という効果的であることを各中学校へアピールしては。そうすると希望者がたくさん集まり、学校の垣根を越えて友達になるなどのメリットが生まれる。

課題のなかに「学生さん主体のイベント連携は難しい」とあったが、校区には素晴らしい大学が複数ある。まずは来館した学生さんに「一緒にやりませんか」と声をかけてみて、後は進めながら一緒に考えるなど、大学生の力を借りることを考えてもいいと思う。

他機関との連携強化については、一昨年うちの園は父子講座に参加し、楽しかったととても好評だった。できればまたやらせていただきたいが、うちの園だけでなく、周辺の乳幼児施設など様々なところに周知をして、「どうですか」というところまで声かけをする。まずは知ってもらうことが大事。内容はSDGsなどについてグループ討議をして発表をするなどすると、子どもたちにとってはいい経験となる。

青少協としては、7月に開催しているミニ集会について、講演の内容・講師の選定などを一緒に考える機会があればいいと思う。今年度のミニ集会では大雨の影響もあり集客に苦労したが、アンケートでは次年度に性教育・性暴力・ヤングケアラー・多様性・SDGsの取り組みなどの希望があったため、合致するものがあれば一緒にやっていたらいいと思う。

3月24日(日)黒髪18町内の通称くものす公園で防災マルシェが行われるが、はあもに

いの参加はあるか。私どもの園が協賛で、黒髪校区の自治協を中心に防災についてお知らせする。はあもいには防災出前講座もあるので、その場で知っていただくいい機会になるのでは。

(事務局 企画事業課田中)

(補足) 資料 P.11 インターンシップ・ナイストライの人数訂正。正しくは中学生 8 人、高校生 2 人。また、大学生は 5 人に加えて 3 月に 2 人参加予定。中学生は桜山中学校・京陵中学校・ルーテル学院中学校より参加。インターンシップ・ナイストライの内容としては、講座や会議への参加に加え、男女共同参画だけでなく、会館内の色々な仕事を経験してもらっている。

(阪本委員)

男女共同参画について市や県で色々な議論がされているが、中・高・大学生との連携はとてもいいこと。そこで学んだ方がウィメンズカレッジやメンズカレッジに興味を持つなど、先々へつながればいいなと思う。ただ、ウィメンズカレッジや KUMADONNA の修了生が各 200 名いらっしゃるが、ウィメンズカレッジの修了生で女性会に入った方が少ないことがもったいないように感じる。ウィメンズカレッジ、メンズカレッジ参加者の年齢構成はどうなっているのか。高齢でも学ぶ意欲のある方がいるが、二の足を踏んでしまうので気になるところ。

(阪本委員)

私としては、男女共同参画という言葉がなくなればいいな、と思っている。それは、ウィメンズ・メンズと分けることなく、人としてみんな同じ、男女の区別をする必要はないという思いがあるからである。

熊本県女性の社会参画加速化会議に参加しているが、女性のキャリアアップに人が集まるということは、社会貢献をしたい方が多いのだと感じている。熊本県女性の社会参画加速化会議の下にある女性参画についてのワーキング会議では、構成メンバーの高齢化が進んでいるため、若い世代に入ってもらい、新しい視点が欲しい。ウィメンズカレッジや KUMADONNA を卒業した方に入ってもらって、色々な意見がもらえたらいいなと思う。

(本田委員)

私は指定管理者制度の下で会館を運営してきているので、その視点からお話ししたい。資料 P.1 第二次熊本市男女共同参画基本計画の体系に基づいて具体的な事業が考えられていると思う。P.9 に事業一覧が載っており、現在は時系列で示されているが、どの事業が基本計画のどの施策に該当しているかがわかっただら、よりわかりやすい。A4 用紙 1 枚で示すのは難しいかもしれないので、A3 用紙を折り込みにはどうか。そして阿部委員が仰っていたように、各事業での実績について、人数等の数値も入れて一覧を作成するとよい。計画の段階でも目標数値等を入れて目に見える形にすると、次の段階で展開する参考とな

るので、そういった見せ方の工夫をお願いしたい。

編成方針も5年度から6年度にかけて見直しされていると思うが、5年間の指定管理期間のなかで、時代とともにどのように方針が変化しているのかがわかりやすく伝わるようにするとよいと思う。市には今検討されている基本計画を新たな課題や新しい世代・視点を踏まえたものにしていただいて、それが次の指定管理の仕様書などに反映されてくる。行政も遅れないように頑張ってください。

(宮村委員)

毎回メンズカレッジが話題になっているが、メンズカレッジがこのままだと廃止もしくは出前講座になってしまうのではと危惧している。人が来ないとのことだが、説教をされると思われまい、そういう雰囲気を出さずに参加をしてもらい、ネットワークを築き、自然と意識を高めてもらう。男性は褒められると伸びるので、家事の理解・子育てへの参加をしてもらい、そして参加者には修了証を交付し認定してあげるなどすると、学ぶ意義が出てくるのではないか。一度だけではなく、回数を重ねてしっかり学んでそういった人材を育成するとよいのでは。メンズカレッジ＝パパではなく、理解のあるリーダーを育成するという方針を示してもらえると、自発的な人が参加してリーダーとなっていくと思う。ウイメンズカレッジのように200名の修了生がいて、若い世代のメンターになるということがうらやましく思う。メンズカレッジにはそれがない。メンズカレッジも「攻め」の方針で、認定してあげてメンターになってもらい、輝いてもらうという視点も考えてほしい。企業に出前講座で行くのも一つの手だが、研修だと自分の意志での参加ではないので、一定の効果はあるかもしれないが、家に帰ると忘れてしまうのではと思う。

「これからの男性の生き方に関する講座」とあるが、男性＝パパ(家事・育児に参加する)としての理想を追求するのではなく、全ての男性にも輝いてもらえるような方向で提案していただきたい。

(森委員)

DV防止出前講座は年二回実施しているようだが、色々なところに働きかけをして希望があったところに行っているということか。

(事務局 企画事業課田中)

講座の実施について広く周知をして、希望があったところに出向いている。出水南中学校は昨年度も実施して好評だったため再度声が掛かった。

(森委員)

できれば熊本市内全中学校で実施してほしい。デートDV、交際の延長線上にある性行為の結果、傷つく女性が多くいる。今年から性犯罪の規定が大きく変わり、不同意性交罪が施行された。今は教育のチャンスだと思っている。先ほど北村委員が述べられたように、みんな学びたい、子どもたちに学ばせたいという思いがある。同意のない性行為は犯罪で

あるというメッセージを伝えなければならない時期だと思う。学びたい、学ばせたいという思いがあれば学校からももっと手が挙がって然るべきだが、その他のことが優先されてしまっている現状がある。そこも含めてもっとはあもにいからも子どもの人生・未来に関わる大事な問題だとしっかり伝えてほしい。また、3月17日のDV防止講座をしっかりと周知して、若い世代に知っていただきたい。

そのなかで若い世代との連携がとても大事だと思う。若い世代は教育の成果によって、感性的にフラットでジェンダーに対しても意識が自然と身についている。私はこの世代が社会の中核となるときに社会が大きく変わるのでと期待しており、今は過渡期であると感じている。しっかりと彼らの感性を育て、私たちが勉強させてもらうくらいの意識で講座を一緒に組み立てていくとよい。そのなかで、ウィメンズカレッジ修了生200名は、熊本のなかで大事な人材バンクのようなものだと思っている。どのような方がいらっしゃるのか興味があるので、どういう方が起業・地域活動などどのようなことをしているのかといった情報を可能な限り公表し、私たちとつなげてほしい。その方々はメンターという形で男性にとっても女性にとっても人生の目標・先輩となる存在だと思うので、そういった点での情報発信をぜひお願いしたい。

(松本委員)

若年層への啓発の強化及びジェンダーバイアスに関して、私の経験をお伝えする。

本学にLGBTQの学生が一名いるが、奨学金の授与式で挨拶をした際に、全て女子学生だと思い、「もう少し男子学生にも頑張ってもらいたい」と発言をしてしまった。後からその中にLGBTQの学生がいたと知り、古い慣習や思い込みなど男女を分けた考え方は良くないと思った。その学生は公認心理士を目指し、LGBTQの人たちの支援やカウンセリングをしたいと思っているそうだ。後輩たちにそういった話をする機会があったので見に行くと、みんな真剣に耳を傾けていた。LGBTQの問題は身近なところにあり、そういった事例はたくさんあると身をもって感じていたようだ。

このようにLGBTQに悩んでいる学生の話をお聴かせする、LGBTQについて知る機会をつくる講座をしてはどうか。問題を身近に感じて効果があるのでは。色々な大学と協力して、このような講座を考えていると働きかけをすると、多くの学校に協力してもらえらると思う。他団体との連携強化ということでは、フランスには働く女性が多いということで、事例をオンラインでフランス在住の方や日本に住むフランスの方に話してもらってはどうか。また、台湾でも働く女性が多く、外食文化が発達していると聞く。TSMCができて台湾の方が多く来熊されている。海外の具体的な事例を伝え、日本のここを変えていくべきではと考える取り組みをしてみてもよいと思う。

(阿部委員)

宮村委員のメンズカレッジに関する意見について、認定制にすることには反対する。その

理由は、男性が家事・育児をすることを褒めるということだが、女性は同じ事をしても褒められない。熊本市の男女共同参画推進条例には大きな欠陥があり、性別に基づく固定的役割分担意識という文言が原案から削除されたために入っていない。その不十分な条例の下で今の基本計画があるということ、私たちは自覚すべきである。性別に基づく固定的役割分担意識については熊本県や他の市町村の条例にはあるが、熊本市にはない。それだけ反対されたということ。10年以上前のことだが、今も変わっていないようだ。それだけ性別に基づく固定的役割分担意識が強いということ。まだ時代に追いついていない。

仰ったように、楽しい講座をやって短い時間でも子どもと遊ぶ、遊び方を知るなど、そこから入っていくというのはとても良いことだが、さわりだけを勉強して「輝いていただく」というのはどうなのか。輝きたくても輝けない、当たり前のように日々家事育児をこなしながら日本の女性たちは働いている。働いていないように見えるのは収入が少ないからだと思う。そこを変えないといけない。会社経営者には「120%仕事ができる男性ばかりを雇うのは当たり前だと思わないでほしい。家事育児の負担をしている女性を雇うと企業は変わる」と伝えている。そうすることでみんなの意識が変わり、男性が家庭に入れば少子化も緩和される。はあもにいにはそういった社会をつくる拠点になってほしい。

(事務局 館長吉田)

励ましのお言葉やアドバイス、新たな視点からのご意見などをたくさんいただき、とても参考になった。これらは全て、すぐにといいわけではないが事業計画のなかでどのように取り組んでいったらいいかを精査しながら取り組んでいきたいと考えている。

阪本委員からあったウィメンズカレッジ参加者の年代についてだが、学生さんから70代の方まで幅広く参加していただいている。小野委員からご意見があったように、今年はステップアップを目的とした企画も行ったことから30~40代の方が多かったようだ。私たちの思いとしては、このあと色々な男女共同参画に関する基本的なことを学んで、地域で発言し活躍していく女性を発掘、育成したいという思いがありますので、そちらを強化していきたい。そうすると、年代も幅広く、活躍されるカテゴリーも幅広くになっていくと思う。次回からはそういったところに重点を置いて募集をかけていきたい。井手委員はウィメンズカレッジを修了されて商工会議所に入られましたが、今後はそういった連携も行っていければ。

(事務局 企画事業課宮脇)

はあもにいの講座により人を集めるには、特に男性に来てもらうにはどうしたらよいかご意見をいただきたい。また、はあもにいでこんなことをしたらよいのではというご提案がありましたら教えていただきたい。

(阿部委員)

男性というよりは管理職の方を集めてはどうか。管理職と若い世代ではジェンダーに関す

る意識が全く違うので、若い世代についていく必要がある。研修・勉強会の場として企業に働きかけをしてはいかがか。

(宮村委員)

営業がお客様と同じ視点に立って要望を聞くのと同じように、対象としている人がどういう人かで変わると思う。子育てをする・しない、意識が高い・低いなど、どういった人をターゲットとするか、またどういう生活をしているかということを考えて、それに合わせて設定をするのが一番では。一般の方はどういう方なのか、視点を合わせるとどういう人が集まってくるかが見えてくると思う。

(小野委員)

自分が思い描いている男性像・女性像が当たり前ではないと知ること、感じる方がいいきっかけとなると思う。コロナ時にオンラインで子育て事情を聞くことがあった。そういうことを聞く機会があると、自分が常識と思っていたことがそうではないと気づくきっかけとなるのでは。

(熊本市男女共同参画課 上村課長)

先程森委員が熊本市内全中学校でDV出前講座をと述べられたが、デートDV防止講座はあもにだけでなく、男女共同参画課としても出前講座を実施している。令和5年度(4～12月までの実績)は、3回実施しており、465人が参加した。